

熊野古道

みちのく記

3

これから陸路熊野街道を
読者の皆さんと私の描いた
イラストマップを片手に歩
きたいと思う。

淀川からの上陸地点・八
軒家浜①を下船し、大阪城
を背に土佐堀通りの永田屋
昆布本店②を進むと、エル



八軒家浜から四天王寺までのイラストマップ

上町台地に残る熊野街道

絵と文・熱田親憲

題字・熱田秦華

おおさかのビル手前の角に
熊野街道の標識をみる。そ
の先を左折して骨屋町筋の
坂を上ると、坐摩神社行宮
③の石柱があり、境内奥に
旧津津王子跡であった。藤
原定家の明月記によると、
上皇・公家たちの一行は申
の刻(午後4時ごろ)に津津
に着き、御奉幣神に綱や貢
物を捧げること、御拝二
度、お経供養、里神楽など
子跡の表示板を確認。50
先の自転車の角を左折し
て、安堂寺町通りに入る。1
00歩ほどで右折すると、
突き当たりに赤い鳥居と高
いエノキ(実はエンジュ、推
定樹齢670年)に囲まれ
た榎木大明神さん④が鎮座
していた。なんとなく歴史
街道の雰囲気を感じてい
る。地元住民の手作りのし
おりによると、当地は上町
の大通りに出て右折すると

歴史をしのびまち歩き

の見物とある。津津王子は
渡辺王子ともいい、渡辺津
にあった坐摩神社の跡地に
当たる。現在、坐摩神社は
南御堂さんの隣にあり、広
い境内を持つ。宮司はせん
ば鎮守の杜芸術祭に屋外ス
テージを提供し、オペラ、
コンサートなどの振興に貢
献されている。

次に南大江公園⑧の西側
隅に進むと、伝承地坂口王
間もなく、道路中央に大き
な茂みの楠大明神⑥が現れ
る。「切ると商売にたたり
がある」と昔から畏れられ、
道路拡張でこの地にあった
寺が移転した後も道の真ん
中に残された。寺町と呼ば
れていた大空襲の際、この大明神よ
り東側一帯は類焼を免れ、
以降、防災の神としても崇
められている。この大明神
筋から一本東側の熊野街道
に戻る。

気は四天王寺の西門⑦へ。
当時、太陽の沈む西の方角
に極楽浄土があると信じら
れ、西大門は夕陽を拝する
聖地として人気があった。
鳥居をくぐると、極楽浄土
に導かれるという「引導石
がある。南大門手前には熊
野権現礼拝石が鎮座してい
る。上皇・法皇や庶民も熊野
に向かって、道中安全を祈
ったという場所である。現
代は弘法さんと太子さんの
月命日に合わせて毎月21、
22日に骨董市が立つ。知人
の七福神探しに同行し、探
し物と旧友に出会い、二重
の喜びに浸っておられたこ
とを思い出す。四天王寺は
昔も今も誰でも迎えてくれ
る心の拠り所だ。歴史を重
ねてきた大阪人の心意気を
感じ、今後も守らねばなら
ない歴史の町を思った。

花の雨八軒家浜の人 暮
れて
秦華

(次回は2月29日掲載予定)